

キーワード	対象	活動テーマ(仮案)	活動内容(仮案)
1 デザイン思考	ポジティブマインドをもって柔軟に物ごとを考えたい人、人間に興味がある人など、どなたでも	デザイン思考で、人間中心のシステムやサービスを構想する	デザインは、人々の行動や活動の場などをよく調べて、調査結果を考察して本質を捉えて問題を発見し、造形力を発揮して人々にとって本当に有用な解決案を創出する行為である。このような、デザインの分野でなされてきた考え方のプロセスが、近年、さまざまな分野で適用され始めている。デザインの考え方を駆使して新しいシステムやサービスを構想・企画することの実践を通じて、デザイン思考について研究する。
2 ダイバーシティ	ユーザー企業の人事部門管理者・担当者 以前に参加された方も歓迎	ダイバーシティの観点による働き方改革の実現	多くの企業で生産性向上を目的とした働き方改革が検討されている。女性活躍推進や介護等のダイバーシティの観点でも働き方改革は欠かせないが、単なるワークライフバランスや両立のための制度活用ではなく、キャリア向上に繋がる制約を制約としない働き方はどうあるべきかについて研究する。
3 性能テスト	IT部門の管理者・担当者	最大の効果を得るための性能テスト技術	システム性能の悪さは、システム利用者の満足度低下や、業務効率の低下を招くため、システム性能をいかに向上させるかは、近年最も注目される技術のひとつである。本研究テーマでは、単にテストツールの活用といった範囲にとどまらず、要件定義、設計・構築、テストといった工程を通してどのようにシステム性能品質を向上させるかを議論、研究する。
4 品質向上	ユーザー企業情報システム部門、企画部門	システム運用保守の品質維持/向上	近年、仮想化やクラウドの浸透、セキュリティ問題多様化など、システム運用に課される要件は複雑化の一途をたどっている。システム運用部門にとっては社内外の関係システムをいかに安定的高品質かつ適正価格で運用し、企業経営に貢献するかが重要な課題となってきた。今年度は、今後ますます重要性が増していくシステム運用保守に着目し、システム運用保守の品質維持/向上について研究していく。
5 高齢者社会・ヘルスケア	ユーザー企業のIT企画部門の管理者・担当者	高齢者の見守り・健康維持をICTで支援 仕事と介護の両立～介護離職を防ぐために～	要介護者は545万人を超え介護期間は平均4年9ヶ月に伸びた。施設への入所待ちも多く、約6割が同居家族が介護している。そこで、企業が従業員の健康促進により生産性向上を目指す「健康経営」を一歩進めて、従業員の家族や両親の健康維持することで「介護離職」を防ぐための働き方や支援制度などを調査・検討する。
6 ICT環境最適化	ユーザー企業の情報システム部門、企画部門	クラウドコンピューティングの上手な活用	大きく、クラウド・モビリティ・ソーシャル・ビッグデータの4つの要素の関連性があるキーワードであるが、クラウド・モビリティ・ソーシャル・ビッグデータはそれぞれがここ数年で飛躍的な成長を遂げたと思う。今後は、これらの要素をうまく活用したICT基盤を構築することにより、低コストで効率のよい仕組み作りができるのではないかと？ IaaSのみならず、PaaS、SaaS。それぞれの特徴と、企業が活用する際に検討が必要なこと、どのようなシステムでどのようなクラウドサービスを利用するのが望ましいかの方法や事例を示す。
7 ネットワーク	ユーザー企業のITインフラ部門の管理者・担当者	次世代ネットワークの動向と可能性を探求	すべてのモノがつながる時代における最適なネットワークとはどのような形態があるかを探求し、その活用を検討する。
8 機械学習、データ分析	ユーザー企業のITインフラ部門の管理者・担当者	IoTによるデータ活用・分析(機械学習・AI)	クラウドなど調達容易な環境でIoTのデータを収集、蓄積、分析、活用を行えるようになって来ています。機械学習も優れたアルゴリズムも提供され、人のサポート、処理の高度な自動化も可能になってくる。本グループでは、IoTのデータ分析にフォーカスをあて、各種センサーデータのデータ分析を具体的に経験し、そこから得られるビジネス上の価値を考える。
9 IoT、デバイス活用	情報システム部門、事業部門	IoT、ウェアラブル、マルチセンサー等の活用シナリオを考える	現場での課題解決や新たな価値創造に向けた適用シーンを考え、様々なデバイス活用により、どのように具現化するか、活用事例や技術調査を通じ、最適解を検討する。
10 DevOps	ユーザー企業の情報システム部門、企画部門	「DevOps」の有用な活用方法を提言	多くの企業が情報システムを利用した価値の向上が求められている。価値を高める情報システムを考えたとき、システムは、市場の反応に対応した連続した改善と、安定した稼働の両立が必要となる。この相反する二つの要求を両立させるために「DevOps」の考えと精神を学び、現在の組織やプロセスをどのように変えていくべきなのか、その中で障壁をどのように乗り越えていくのかを研究し、提言する。
11 ロボット	ユーザー企業のIT企画部門 ユーザー企業の企画部門	ロボット活用によるサービスの創造	現在のロボット技術を調査し、どのような技術進歩があるのかを考え、現業と関わりや、近未来のビジネス・サービス利用の場面を想定、可能性などを探る。
12 サイバーセキュリティ	ユーザー企業の情報システム部門	企業のサイバー攻撃対策を検討する	企業を標的としたサイバー攻撃が後をたたない。オリンピック等の国際的なイベントを開催する国では、様々な社会基盤としての防犯を含めたセキュリティ対策が行われている。サイバー攻撃を完全に防止することは不可能であるが、企業に必要なサイバー攻撃対策はどのような方法があるか？また、企業がサイバー攻撃に遭遇した時、どのような対処が必要であるかを提言する。
13 物流業務の品質向上	物流業界・物流業務に関わる部門	将来の物流のあり方とそれを支えるIT技術を考える	車両の自動運転もその実用化に向けて動き出している。IoTの進化によりさらに高度化する世界の中で物流はどう進化するのだろうか。ロボット活用、AIの活用など新たなサービス創出の可能性が高まっています。現行システムへの組み込みがどの程度まで可能であるかを検討する。また発生する将来の展開についても動向を探る
14 若手IT技術者	入社5年程度経過された方	若手技術者が職場で活躍するために(参加者の方々にテーマ検討)	これからのIT発展を担う技術者の人材育成は、企業にとって重要な施策である。システムに携わる人材は技術スキル取得をメインに考えている傾向が強い。しかし長い目で会社人生を捉えて人材育成視点、自己啓発視点を常に意識していく必要がある。企業の存在意義を確認することにより働き甲斐、生きがい、更に個人のパフォーマンスを發揮するために何が重要か？入社4～5年生は会社に慣れこれから目指すもの、会社側から期待されていくためには参加者が自ら考え、テーマとなりをすべきかなど、方向性を検討・決定していく研究活動となる